
Medical Quiz

聖マリアンナ医科大学雑誌
Vol. 31, pp. 461 - 462, 2003

出題者：超音波センター，放射線科 太田 智行 辻本 文雄

(問題)

症例32歳女性 生来健康

腹部超音波検査（図1）で肝右葉後下区域（S6）にみられる所見はなにか？

図1



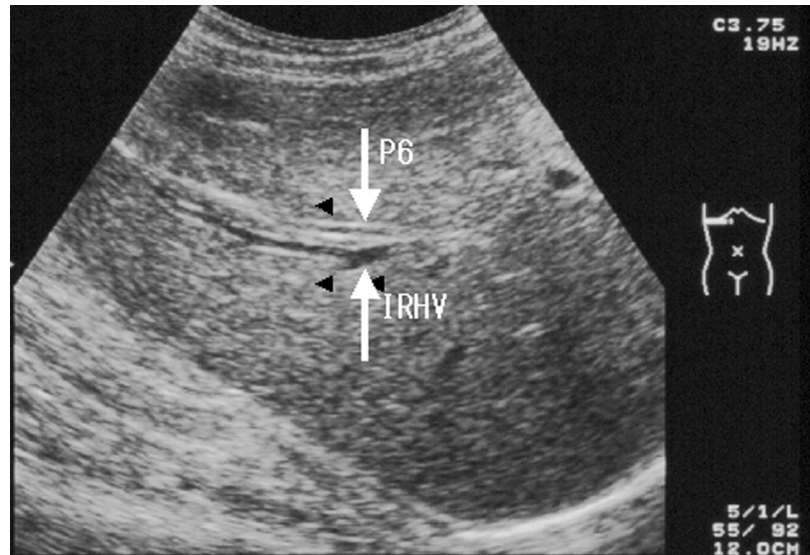
(解答) pseudo-parallel channel sign

pseudoparallel channel sign は、下右肝静脈と門脈の併走する像が、閉塞性黄疸で見られる parallel channel sign に似ることより、1983 年幕内らが最初に命名したことで知られている¹⁾。一方で、アルコール性肝炎の患者で特徴的にみられる肝動脈亜区域枝と門脈の併走する像が、やはり parallel channel sign に類似するというので、1993 年住野らはこれを pseudoparallel channel sign として報告している²⁾。今回は前者をとりあげた。

肝静脈は右肝静脈、中肝静脈、左肝静脈の他に尾状葉から直接、下大静脈に流入する短肝静脈や後下区域から直接、下大静脈に流入する下右肝静脈などがあり、これらは健常者の 6 ~ 10 % にみられ副肝静脈と総称する³⁾。肝移植では out flow block (肝静脈の閉塞や狭窄により肝臓がうっ血し肝腫大、腹水貯留、肝機能低下などを来すこと) を回避する目的で副肝静脈は慎重に再建される⁴⁾。また、Budd-Chiari syndrome では副肝静脈の PTA を行ってステントを留置し、肝うっ血を解除する治療が試みられている⁵⁾。

図 1 で下右肝静脈と S6 の門脈が併走している所見がみられるが、これは幕内らが報告した pseudo-parallel channel sign である (図 2 参照)。注意してみれば、少なからず遭遇する所見として意識できるようにしたい。

図 2



P6 は後下区域の門脈亜区域枝、IRHV (Inferior Right Hepatic Vein) は下右肝静脈で後下区域から直接、下大静脈へ流入する。

参考文献

- 1) Makuuchi M, Hasegawa H, Yamazaki S, Bandai Y, Watanabe G, Ito T. The inferior right hepatic vein: ultrasonic demonstration. *Radiology*; 1983; 148: 213-217
- 2) Sumino Y, Kravetz D, Kanel GC, McHutchison JG, Reynolds TB. Ultrasonographic diagnosis of acute alcoholic hepatitis, 'Pseudoparallel channel sign' of intrahepatic artery dilatation. *Gastroenterology* 1993; 105: 1477-1482.
- 3) 辻本文雄. 超音波医学辞典, 秀潤社 p 468
- 4) 河地茂行, 島津元秀, 若林剛, 星野健, 田辺捻, 渋谷慎太郎, 森川康英, 北島政樹. 肝移植における副肝静再建の適応. *外科* 2003; 65: 31-34
- 5) Gu Yuming, Yang Renjie, Zu Maoheng. Budd-Chiari syndrome: accessory hepatic vein PTA and stent. *日本医学放射線学会誌* 2002; 62: S 141